

2020年11月8日（日）「恵みの契約を受け継ぐ子どもたち」

創世記 6:17-18

17 私は今こそ、地上に大洪水をもたらす。命の息のあるすべての肉なるものを、天の下から滅ぼすためである。こうして地にあるすべてのものは息絶える。18 だが、私はあなたと契約を立てる。あなたは、息子たち、妻、息子の妻たちと一緒に箱舟に入りなさい。

【序論】

11月第二主日には、毎年「子ども祝福礼拝」を行なっております。今日は説教の後で子どもたちの祝福を祈らせていただく予定ですが、司式者としての意識は毎年違うなあということを感じております。それは、示された聖書箇所の内容にもよるのかもしれませんが、「子どもの祝福」という事柄を様々な方向から見ることで、立体感が増していく感覚があるのです。聖書の至る所に子どもが出てきていることを知り、その子どもたちが信仰共同体の中でどのように育まれていたかを知ることは、教会における私たちの子どもとの接し方の道しるべとなるでしょう。今日は創世記の「ノアの洪水」の記事より、神ご自身が子どもをどう見ておられるかを学んでいきたいと思っております。

【本論】

以前に創世記の講解説教をしたときにも、ノアの洪水の記事を学びました。記録によりますと、6:9-22は2011年2月20日に扱っており、読み直してみたところ、18節の「契約」にまつわる内容にはほとんどふれられていませんでした。ですから、これから語る内容は過去の説教とは全く別物となります。今日は、神とノア（一家）との間で交わされた契約を中心に学んでいく予定です。

本論1. 洪水の理由

私は今こそ、地上に大洪水をもたらす。命の息のあるすべての肉なるものを、天の下から滅ぼすためである。こうして地にあるすべてのものは息絶える。だが、私はあなたと契約を立てる。あなたは、息子たち、妻、息子の妻たちと一緒に箱舟に入りなさい。（6:17-18）

そもそも、なぜ大洪水が地にもたらされるかというところから話を始めていかななくてはならないでしょう。そのために、少し遠回りのようではありますが、神と人類との最初

の契約に立ち返ります。創世記は、元々人類は樂園で神と平和な関係の裡^{うち}を歩んでいたと語ります。そして、神と人との間で交わされた一つの契約があったと。それは、神の御言葉に従って、善悪の知識の木から食べることをしなければ永遠のいのちを受けるが、もし食べたなら必ず死ぬという契約です（創世 2:16-17）。これは通常「業の契約」と呼ばれます。しかし、アダムとエバはこの契約を破り、神と神の法を否定しました。このことは本質的に、善悪の基準である神の法を捨て、人間が自己を善悪の基準としたことを意味します。こうして、人間が神に代わって神となる「自己神論（無神論）」が生まれたのです。

神は契約違反者である人類に、あらかじめ告知していた通りの報いをもたらされました。人間は死ぬべき存在となり、樂園を追放され、更に彼らから生まれ出るすべての人間も「自己神論」による契約違反者となりました。その人類によって形成される世界は「暴虐に満ちていた」（6:11）と説明されています。信仰者と無信仰者の違いとは、善悪の判断基準を「神の意思」「神の教え」に置くか、自己に置くかにあります。人間の知識や経験には限界がありますから、自分の嗜好や好み、その時の気分次第でコロコロと変わる可能性があるでしょう。その結果、欲望のままの自己中心的世界が広がっていったのは至極当然のことです。それが、神が地に洪水をもたらすと判断された理由です。

神が地を見られると、確かに地は腐敗していた。すべての肉なる者が、地上でその道を腐敗させたからである。（6:12）

私たちは、自分が根本的にアダムと同様の契約違反者であるということを、どのようなところで知ることができるでしょうか。それは、私たちの思いの向かう方向が常に「自己」であるということではないか。自分の満足を得ることを中心とした人生を形成しようとするところに、常に「自己神論」は息を潜めている。欲望に従った生き方は、神の法と相対立するのです。

本論 2. 神がノアと結ばれた恵みの契約

そのような人間世界にやがて洪水がもたらされるとの予告がノアにありました。ノアがなぜ神から声をかけられたか、それは彼自身の義によるのではなく、おそらく生まれながらにして神との契約関係の内であったということなのでしょう。それは、ノアの両親が目的をもって彼に名前を付けたところにあります。

彼（ノアの父レメク）はその子をノアと名付けて言った。「この子は、主が土を呪われたゆえの、私たちの手の働きと労苦から、私たちを慰めてくれるであろう。」（5:29）

この父親の言葉では、神がノアを通して人間世界に恵みを与えてくださることが預言されています。その願いの通りに、神はノアに働きかけてくださったのです。これは信仰の系譜から出てきた神の恵みでした。6:19 に出てくる「**契約を立てる**」というフレーズは、元々存在した約束（または誓い）を確立させるという意味で言われています。つまり、ノアは神との契約関係の中で生まれてきたのであり、神は時至ってそれを確かなものとされたのです。

契約について、もう少し詳しくお伝えしておきたいと思います。聖書に出てくる「契約」には、大別して「両者の合意」と「一方方向の誓い」という二つのタイプがあります。「両者の合意」による契約は、対等の立場にある者同士の間で交わされるもの。それに対し、「一方方向の誓い」というのは、「優越者と劣等者」の間の契約であり、神が罪人に対して一方的にお与えになる「恵み」です。その場合、人間の側は何事もなすことができず、神が語られることを信じ、従い、実行するのみということになります。

神とノアの関係というのは、まさしく「恵みの契約」であり（先の「業の契約」に対するもの）、神から一方方向に結ばれたものなのです。その証拠に、神はノアとその家族を洪水から救い出すために箱舟建設をお命じになりますが、その詳細に及ぶ指示は、ノアが考え出したものではなく、神ご自身の方法によるものです。救いの方法は決められているのであり、その通りに行動することによって彼は救いにあずかることができるのです。もちろん、この箱舟建設は簡単に実現されたものではなく、彼は多くの困難を乗り越えてその大事業を完了させました。箱舟のサイズは「**長さは三百アンマ、幅は五十アンマ、高さは三十アンマ**」（6:15）であったとされています。つまり、長さ 140m、幅 23m、高さ 14m という巨大な箱型の船であり、当時こんな形の船はおそらく存在しなかったもので、人々の理解や協力を得ることは困難だったと思われます。もちろん、ノア一人で建設ができたはずもなく、家族の理解と協力を得なくてはなりません。家族一丸となって、何十年という歳月を費やし、人々の罵りを聞きながら、この作業を続けたのでしょう。このところに、家族として神に従っていくノア一家の姿勢が見られます。

本論 3. 家族単位での契約

18 節を直訳すると「あなたは箱舟に入りなさい。あなた、あなたの息子たち、あなたの妻、あなたの息子たちの妻たちは、あなたと一緒に」となります。著者は「あなたと」（אִתְּךָ／イッターク）という表現を二重に使用し、ノアの至高の重要性を強調しています。つまり、神とノアとの契約を通して、ノアに連なる家族にも同様の恵みが注がれるということが言われているのです。

このように見ていきますと、神がその「恵みの契約」を結ばれた対象が、ただノア個人との間に止まるものではなく、彼の家族も含まれていたということが分かってくるでしょう。そして、神の目的は、他のすべての動物に対しても雄と雌を一つがいつ残すことが命じられているように、種の存続が重要であり、人類もまた生き残っていかなくてはならないのです。その人類は、残念ながら、再び墮落の道を辿っていくこととなりますが、神との契約関係の中に留まる一つの系図が存続する。旧約聖書を通じてその系図は細く長く保たれ、その家系から救い主イエス・キリストが誕生します。

教会において子どもが祝福される時、そこには生まれながらにして神の「恵みの契約」の下にある子どもの姿を私たちは見ます。大人は、その契約から子どもたちを決して除外してはなりませんし、その意味において子どもが当然のように礼拝に参加している必要があるのです。「子ども祝福式」とは、ただ子どもたちを「かわいい」ばかりの存在として見る時ではなく、神の「恵みの契約」を担う器として、その人生を全うできるように祈る時ではないかと思います。

【結論】

教会に集う子どもたちに対する私たちの意識は、御言葉によって整えられる必要があります。主イエスがどのように子どもたちと接しておられたかを見ることも重要でしょう。来年度、再来年度もこの時期はやって来ますが、しばらくは旧約聖書の中に登場するいくつかの契約を学んでいく予定です。それによって、家族単位で契約を結ぼうとしておられる神の意思がよりよく分かっていくことと思います。また、それと同時に、信仰告白は最終的に神と個人との間でなされなくてはならないものでありますから、子どもたちが成長し、その日を迎えることができるように、神との関係を確立することができるように、お祈りいただきたいと思います。

【祈り】

人間一人びとりを、その人生が始まる前から知っておられる神よ。あなたはすべての人によって礼拝されるべきお方です。しかし、人が真の礼拝者となるためには、あなたの選びと、人生への介入が不可欠です。人は誰もが罪の内に生まれてくるからです。主よ、既に礼拝の祝福を知る者を捕え続け、その心に確かな信仰をお与えください。そして、時至ってその信仰を明確に言葉に表す日が訪れますように。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、

ノアとその家族を通して、信仰の系譜を後世に残し給うた、父なる神の愛、
御許に連れて来られた幼子を受け入れ、確かな祝福を与え給うた、主イエス・キリスト
の恵み、

主の共同体に連なる子どもたちを、ご自身のもので豊かに育み給う、聖霊の親しき
交わりが、

あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。